

計画体系		項目 番号	課題に対する取組	2024年度実施する具体的な取組		2025年度実施する取組
				計画	結果	予定（担当案）
基本方針1	県内の中核機関としての役割・機能の発揮	1-1	バイオバンク、重点プロジェクトを継続・発展させることで、更なる「総合がんセンター」機能の強化に取り組む。	バイオバンクの外部からの利活用を開始する。上半期に重点プロジェクト・バイオバンクの外部評価を実施する。	・バイオバンクについて、外部からの利活用が可能な体制を整備し、ホームページ上などによる周知を図った。外部からの直接の利用申請はなかったものの、多数の利用相談があった。また、外部機関との共同研究においてセンター内での利用があった。 ・重点プロジェクト・バイオバンク事業を着実に推進した。その結果、上半期に実施した重点プロジェクト・バイオバンクの外部評価において「研究機関としての持続的な成長と国際的な競争力を維持するためにも、重点プロジェクトの継続は必須」等の高評価を得た。	・引き続き周知を行い、外部を含めたバイオバンクの利活用実績を増加させる。 ・外部評価の結果を参考に重点プロジェクトの課題の見直しを行い、さらに発展させる。
		1-2	病院・研究所の合同セミナーなどを通じて、病院医師の研究参加や病院との共同研究を促進し、更なるエビデンスの発出に取り組む。	引き続き、同方針で合同セミナーを実施するなど、共同研究を促進していく。	・セミナーを実施することはできなかったものの、合同セミナーのあり方を見直す会議を開き、参加者が特定の人に限られるなど、センター全体での重要な取組としての認識が十分共有されていない点が課題であることを再確認した。	・合同セミナーを年2回、勤務時間内に開催して全員参加とする。 ・また、企画段階から若手医師・研究員を巻き込み、病院と研究所との共同研究での研究費の獲得実績がある病院医師による講義を行うとともに、重点プロジェクト研究についても進捗状況を共有して議論する場を設ける。
		1-3	研究所発の成果を活用し、知財取得、企業のニーズ把握とマッチングによる共同研究開発推進、先進的臨床試験の支援を一元的に行うため、病院と協力して診断・治療の革新につながる橋渡し研究の推進体制の更なる整備に取り組む。	治験、臨床試験、橋渡し研究の支援体制に関して、国立がん研究センターとの連携で強化できるよう病院と協力していく。	・複数実施されている全ゲノム解析研究のうち、臨床試験に付随した研究に関して、病院と協力して開始することができた。	・病院と協力して臨床試験に付随した全ゲノム解析研究を継続するとともに、名古屋大学やMDアンダーソンがんセンターなどと協力した国際治験や橋渡し研究の推進とその支援体制の強化に取り組む。
		1-4	研究所の持つ情報技術（IT）、人工知能（AI）などの情報解析技術基盤をがんセンター内で共有し、診断・治療の革新につながる異分野融合研究（病理や画像診断支援、治療効果や副作用予測など）に取り組む。	2024年にシステム解析学分野長が大会長となり名古屋で開催される第6回日本メディカルAI学会学術集会を起爆剤に、さらにAIを医療で活用するため、病院や企業との共同研究を推進する。	・第6回日本メディカルAI学会学術集会は盛会となった。 ・研究所の電源整備により、AI活用研究の基盤となるサーバー室を構築することができた。 ・AIを活用した企業や他研究機関との共同研究を含めて、研究所、病院でのAIの医療への活用研究が進んだ。	・名古屋大学の情報系の連携分野長を招聘し、引き続き、企業や他研究機関との共同研究を含めて、研究所、病院におけるAIや機械学習を活用した医療への応用研究を進めていく。
		1-5	世界のがん研究の趨勢に対応して、柔軟な研究組織の再編などによる研究力の強化に取り組む。	研究所に異分野融合の連携分野長を招聘する。研究組織再編案を策定する。	・研究所に異分野融合の連携分野長・ユニット長を各1名（それぞれ情報系、化学合成系）招聘した。 ・研究組織再編案を検討した。	・異分野融合領域を核として、研究所内および研究所・病院間の共同研究をさらに活性化させ、イノベーションを創出する研究を展開する。
		1-6	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価を、県内のがん診療の均てん化や集中化の実態把握と県内格差の是正のための施策提言につなげるとともに、医療機関がベンチマークとして活用できる体制づくりに取り組む。 【重点】	県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を取りまとめた文書を継続的に更新するとともに、生存率等に関する情報も取りまとめる。公開可能な統計情報は、ホームページに掲載する。	・県内のがん診療連携拠点病院の院内がん登録情報などから得られるがん医療評価結果を取りまとめた文書の更新版を発行したほか、生存率等に関する情報についても、取りまとめ文書の新規発行を達成した。 ・がんセンターのホームページに愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページを整備した。	・県内のがん診療連携拠点病院におけるがん医療評価結果の更新を進める。 ・愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。

病院名：がんセンター研究所

計画体系		項目 番号	課題に対する取組	2024年度実施する具体的な取組		2025年度実施する取組
				計画	結果	予定（担当案）
		1-7	県のがん対策・医療の統合的評価に関し、がん予防や罹患、治療成績、予後情報などに県民が容易にアクセスし活用できるよう、がんセンターのホームページなどを用いて情報発信する体制整備に取り組む。	ホームページに愛知県のがん統計情報などを集約して掲載する。	・がんセンターのホームページに愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページを整備した。	・愛知県がん診療連携協議会・愛知県がん情報のページで公開可能な統計情報の掲載に関して、国の方針に従い検討する。
基本方針2	高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出	2-1	試料、情報の提供に加えて、がんの新規診断・治療法の開発につながる橋渡し研究等の研究デザインに関してもバイオバンク利用希望者からの相談に応じるなど、バイオバンク利活用の活性化に取り組む。	外部からのバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じるなど活動を広げる。	・内部からはバイオバンクの資料・試料を用いた研究相談に応じることで、着実に利活用例は増え、成果の発出にも至っている。 ・外部からの直接の利活用には至らなかったものの、外部機関との共同研究におけるセンター内での利用申請が1件あったほか、多数の利用相談に対応した。	・引き続き、企業を含めたバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じることで、利活用を促進させる。
		2-2	国内屈指のがん予防研究拠点として、バイオバンクに試料と疫学・医療情報を蓄積する事業を継続・発展させるとともに、これらの利活用による病院や他の研究機関、企業とのがんの新規診断・治療法の開発につながる共同研究等を通じて、基礎的研究・橋渡し研究を含む個別の大型プロジェクトへの導出とエビデンスの発出に取り組む。	外部からのバイオバンク利活用も進めて、共同研究獲得につなげる。	・内部からはバイオバンクの資料・試料を用いた研究相談に応じることで、着実に利活用例は増え、成果の発出にも至っている。 ・外部からの直接の利活用には至らなかったものの、外部機関との共同研究におけるセンター内での利用申請が1件あったほか、多数の利用相談に対応した。	・引き続き、企業を含めたバイオバンク利用希望者からの研究相談に応じることで利活用を促進させる。 ・また、バイオバンクに限らず、個別に進められている病院や他の研究機関、企業との共同研究を大型プロジェクトに発展させる可能性についても検討する。
		2-3	重点プロジェクトでの基盤的な試料、情報、技術の蓄積を継続するとともに、データベース化によりがんセンター内での共有や利活用を加速し、分野横断的な共同研究並びに他の研究機関や企業との共同研究に発展させ、革新的ながんの診断・治療法の開発につながる新規の大型プロジェクトの立ち上げに取り組む。【重点】	全ゲノム解析等実行計画参画で得られた、全ゲノム・RNAシーケンスデータを含め、蓄積したデータを用いた研究成果の発出、共同研究の推進を行う。	・重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られたデータを用いた共同研究が進み、研究成果の発出につながった。	・継続的に、重点プロジェクトや全ゲノム解析等実行計画参画で得られたデータを用いた共同研究を進め、さらなる研究費獲得につなげる。
		2-4	バイオバンクや重点プロジェクトの継続による基盤的ゲノム試料・情報収集の支援などにより、国内がん予防研究拠点を維持・発展させ、更なるエビデンスの発出に取り組む。	継続して、バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報の利活用による共同研究推進に努める。	・バイオバンク、重点プロジェクトを基盤とした試料、情報を利活用することにより、学術機関との共同研究を促進させた。	・継続して、バイオバンクや重点プロジェクトを基盤とした試料・情報の利活用による共同研究推進に努める。
		2-5	他の研究機関や企業などとの共同研究を含め、がんの一次、二次予防などの先制医療の実現に資するエビデンスの蓄積や検診プログラム・ツールの開発と実用化に取り組む。	蓄積されたエビデンスを検診プログラム・ツールの開発と実用化につなげるため、病院や企業に働きかける。	・がんセンターから発出したエビデンスが診療や検査のガイドラインに利用されている。 ・がんセンター病院で、来年度以降のハイリスク者の予防検診の拡充が検討されている。	・がんセンター病院に加えて、他の研究機関や企業との共同研究に対して、検診プログラムやツールの実用化研究の実施に関して働きかける。
基本方針3	県内の医療や研究の中心	3-1	独創的かつ学術的、社会的インパクトの高い研究成果の発出促進のために、特に若手研究者が国際学術雑誌や国内外の学術学会で発表する機会の創出や支援に取り組む。	引き続き、運用部とも相談しながら、成果を発表しやすい環境・体制整備に努める。	・宿泊費等の高騰が問題となる中でも国際学会での成果発表等を推進するため、規程等の範囲内において旅費の使用ルールを弾力的に運用し、成果発出や共同研究につなげた。	・引き続き、事業庁、運用部とも相談しながら、成果を発表しやすい環境・体制整備に努める。
		3-2	若手研究者の育成に向けて、名古屋大学の連携大学院としての積極的な大学院生受入れや、包括連携を結ぶ愛知医科大学を含む他機関からの任意研修生受入れの更なる強化に取り組む。	若手研究者受け入れ数に関しては、目標が達成できておらず、引き続き名古屋大学を含む共同研究を実施する医育機関に大学院生や任意研修生派遣を働きかけるなど受け入れを促進するよう、研究所内で意思統一していく。	・所長、分野長が個別に共同研究先などに大学院生や任意研修生の派遣を打診するなど、受け入れの促進に取り組んだ。 ・結果としては、リサーチレジデントは継続的に受け入れがあったものの、大学院生や任意研修生の受け入れはやや低調となった。	・異分野融合領域でのリサーチレジデントや研究員の受け入れを含めて、さらなる若手研究者のリクルートに努める。

病院名：がんセンター研究所

計画体系		項目 番号	課題に対する取組	2024年度実施する具体的な取組		2025年度実施する取組
				計画	結果	予定（担当案）
	となる人材の育成	3-3	新たな研究医の人材確保と育成のために、病院のレジデントと研究所のリサーチレジデントをシームレスにつないだ研究医育成コースなどの体制構築に取り組む。	将来ビジョン策定の中で研究医育成コースの方向性や方略に関して検討した後、病院との協議を行う。	・希望する医師が少なく、研究医育成コースの構想は進んでいないが、AIを用いた研究などでは研究所で研究を行う病院医師が増えた。	・AIを用いた画像や病理診断など、医師に親和性の高い研究を通じて、研究所で研究を行う病院医師を増やすプログラムを検討する。
		3-4	研究員やリサーチレジデントのキャリア形成につなげるため、これを積極的に支援する体制構築に取り組む。	引き続き、教育歴の確保、キャリアパスを考える外部講師による講演などを行っていく。	・教育歴を確保するための外部教育機関での講義機会の提供や共同研究につなげるための研究発表の機会の提供を積極的に行なった。	・継続的に、キャリア形成サポートのための教育機会の提供やセミナー開催を行う。
		3-5	研究所に、ゲノム疫学研究や臨床との橋渡し研究の付随研究の国内研究拠点を整備することで、他機関と連携した研究資金の獲得を伴う大型プロジェクトの推進に取り組む。【重点】	テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究に取り組む。 引き続き、全ゲノム解析等実行計画に関連する研究やその他の橋渡し研究への積極的な参加やJ-MICC研究の拠点環境整備を推進する。	・テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究を3件開始した。 ・ゲノム疫学研究の国内拠点としての試料・情報の収集整備、全ゲノム解析研究への参加による試料・情報収集等の大型他施設研究につながる環境整備を、がん予防研究分野を中心に進めた。	・継続して、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究を通じて橋渡し研究を推進するとともに、がん予防研究、ゲノム疫学研究拠点整備を行う。
基本方針4	取組の見える化	4-1	研究活動や成果、がん医療の未来への貢献などに関する発信力をより高めるために、ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルでの動画配信などを活用して、幅広い層に対する情報発信に取り組む。	ホームページ、SNSを用いた情報発信にさらに力を入れ、発信の頻度増加、受賞や学会発表情報など内容の充実によりフォロワー増加を目指す。	・ホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信を継続したものの、プレスリリース案件が少なかったことから、情報発信数は低調でフォロワーの伸びも少なかった。	・継続してホームページ、SNS、公式YouTubeチャンネルを用いた情報発信を行い、積極的にプレスリリースするなど発信の頻度を増やすとともに、内容の充実を図ることによりフォロワー増加を目指す。
		4-2	県民のがんやがん研究への理解の促進とともにバイオバンク事業・臨床研究などへの研究参加の意識を更に高めるために、高校・大学への出張講義、親子で参加できる実験体験、サイエンスカフェ、参加者のがん予防の意識向上を目的とした公開シンポジウム、がんサバイバーを招いたチャリティコンサートなど、多彩なアウトリーチ活動の企画と実施に取り組む。【重点】	高校生実習、公開講座は引き続き行う。研究所長が世話人として日本癌学会の市民公開講座が名古屋で開催されることから、これに連動したアウトリーチ活動を行う。	・高校生実習に加え、本年度の研究所担当公開講座も中高生向けに研究の魅力を伝えるプログラムとした。 ・愛知県がんセンターを中心に行われた日本癌学会市民公開講座も新聞のコラムに連動させることで盛会となった。	・高校生実習、公開講座の企画を充実させる。
基本方針5	持続可能な安定した経営基盤の確立	5-1	研究所や病院全体として新規研究領域の開拓や大型研究資金を獲得するために、がんセンター内の共同研究推進、試料・情報・技術リソースの共用化、情報解析のための国内計算機基盤（スーパーコンピュータ）の共同利用や教育の整備、研究分野横断的な共同研究の活性化に取り組む。	外部講師又は内部講師による情報教育の提供を行う。	・外部スーパーコンピュータを継続利用し、大規模データの取り込みのための高速LAN整備を行うとともに、機器の利用促進のための技術講習会を開催するなど、研究機能向上に努めた。	・異分野融合領域を核に、研究所、病院で広くイノベーションを創出する新規研究領域の共同研究を提案し、研究資金獲得を目指す。
		5-2	途切れることなく、最新のがん研究に必須となる高度精密機器の充実、整備と動物実験施設の充実・管理体制の強化に取り組む。【重点】	予算の限られる中でも、間接経費の効率的運用により、共通機器、動物実験室の整備を進める。	・間接経費の効率的運用により、実験動物施設の改良、修繕や、共通機器の整備を行うとともに、研究技師による管理体制の強化を行った。	・継続して、間接経費の効率的運用に取り組むことにより、共通機器、動物実験室の整備を進める。
		5-3	外部研究費における間接経費の柔軟かつ計画的な運用を可能にし、共同利用機器の保守・修理、共同利用ソフトウェアや計算機環境の整備を含む基盤的な研究インフラ整備に取り組む。	継続して、間接経費の効率的運用によりソフト・ハードインフラ整備を進め研究環境の維持・向上を行う。	・実験動物施設の改良、修繕など、間接経費の効率的運用によるソフト・ハードインフラの整備を進めた。	・継続して、間接経費の効率的運用に取り組むことにより、ソフト・ハードインフラ整備を進め研究環境の維持・向上に努める。
		5-4	がんセンターの機能を最大化するため、連携する名古屋大学などの、共同利用機器、研究のマッチング機能、知財関連の支援の活用により更に取り組む。	引き続き、共同利用機器の利用を進めるとともに、異分野融合領域への名古屋大学の教員のリクルートを進める。	・名古屋大学の質量分析機の利用を推進するとともに、名古屋大学から異分野融合領域の連携分野長・ユニット長各1名のリクルートを進めた。	・継続して共同利用機器の利用を進めるとともに、異分野融合領域への研究員のリクルートを進めて融合研究を強化する。